

## メープルレター(6)

晩秋になりました。9月の後半は、陽の光が強い、真夏並みの30度を超えた気候だったせいか、紅葉が二足ほど遅れました。鴨も渡るのを止め、悠然と池で泳ぎ、渡り蝶々(オオカバマダラ)もヒラヒラと舞っていました。この渡り蝶は、不思議な蝶で、夏に山の中でオレンジ色の壁のように群れをなしていることがあり、壮観です。鴨のように集団で渡るようですが、この小さい体でどうやって3000キロメートル以上も飛んで南に渡るのでしょうか。乱気流にでもものるのでしょうか。

我が家のドリトル先生も

「ふーん。良くわからない。不思議だ、不思議だ」と頭をなやませながら、舞うオオカバマダラを追いかけていました。

一夜にして気温が急下降して晩秋になり、鴨も蝶もきっと慌ててた旅立っていったことでしょう。

メープル街道と呼ばれるモントリオールからケベックまでの道なりは、真っ赤なもみじの葉の壁がどこまでも続き、圧感です。北の山並みは、急激な温度の降下で、真っ赤になっている部分とまだ緑の部分が残るやや紅い葉とが入り混じり、錦を織りなしています。優しい優雅な織り模様ではありませんが、針葉樹の色を背景に色の饗宴です。

オールドポートには、ヨーロッパやアメリカからの豪華客船がひっきりなしにやってきます。アメリカ国境との山脈が明らみ、朝が来るころ、薄眼をあげた寝ぼけ眼に、全長100メートル近い、10階建てほどの建物のような巨大な船が突き進んできます。狭いスペースを30分ほどかけてゆっくりと旋回して岸壁に優雅につけていきます。ハイテクが駆使してあるとはいえ、お見事。寸分の間違ひもなく向きを変えていきます。水先案内人の小さな船が、後、先について回っています。乗客は3000千人、乗務員500人くらいの動く町です。町がまだ眠りから覚めないうころですが、船の入港はスペクタクルのパフォーマンスのようです。デッキに出て手を振る乗客など、夕暮れ時の出港もまたロマンチックなものがあります。船の中の様子は、家人とともに、プライバシーの侵害をしない程度に双眼鏡で探りをいれております。

この豪華客船も感謝祭を機に姿を消し、町は冬に向かっていきます。